



第 44 号  
発行所  
**関高等学校同窓会**  
岐阜県関市桜ヶ丘 2-1-1  
郵便番号 501-3903  
電話 (0575) 22 - 5688  
FAX (0575) 23 - 7089

〈校訓〉  
**進 取**  
**至 誠**  
**錬 磨**

### 平成24年度同窓会総会開催

書記 浅野登代子 (高10回)

去る6月16日(土)平成24年度関高等学校同窓会総会が、美濃市の「みの観光ホテル」で開催されました。学校からは安藤敏彦校長、重山武平教頭がご出席され、来賓として尾関健治関市長がご臨席くださいました。

また、当番幹事の22回生・23回生の呼び掛けにより、総勢160人を超える盛大な総会になりました。

杉浦会長は、昨年11月5日に開催された創立90周年記念事業について、未曾有の東日本大震災復興に国民が全力を注いでいる中、質素でしたが記念すべき内容でしたと挨拶されました。安藤校長からは

関高校の現状や、少子化時代に対応できる新しい礎を築く必要性を話されました。

その後、審議事項に移り平成23年度の事業報告と会計報告・同窓会会則第6条の一部改正に続き、新役員選出が行



盛大に160人を超える同窓生の集い

われしました。新会長に堀部哲夫氏(高21回)が承認されました。

平成24年度の事業計画案と予算案が審議され、満場一致で承認可決されました。

総会に引き続き懇親会ではあちこちに懇談の輪ができ、久しぶりの再会を喜び、楽しい一時を過ごすことができました。最後に、関高応援歌を全員で声高らかに歌い、総会・懇親会を無事終えることができました。

現在、関高等学校同窓会会員は24,000人余りです。

ますます同窓会活動が盛んになることを念じながら報告を終わります。

6月16日の関高校同窓会総会で会長のご承認を頂きました。関高校は創立90年の歴史を有する伝統校です。その同窓会の会長を務めることに責任の重大さを感じています。

### 新同窓会長挨拶



会長 堀部 哲夫

有効に活用されることを考えていく必要があります。

その一つに、災害時のボランティア活動を考えてみてはと思います。日本は、昨年大きな災害に見舞われました。こうした災害に見舞われることは日本の宿命であり、これに備えることは、国民的課題であろうと思います。全国に散らばる卒業生24,000人以上を有する関高校同窓会の連絡網を利用し、万が一の同郷、同窓の者が助け合えるそんな組織作りをしたいと考えています。

遠く郷里を離れ活躍しておられる同窓会員が被災されたときに、わずかでも援助ができること。郷里が被災したときに、全国の同窓会員が援助できるように全国組織づくりが必要だと思えます。全国を地域ごとに区切り、名簿と連絡網の作成などが必要になってきます。

私の任期中にどれだけのことができるか分かりませんが、お役に立てるよう頑張る所存です。幸い、多くの役員に恵まれています。役員皆様方のお力添えを頂き、一丸となって同窓会の発展に寄与してまいります。ご指導よろしく願います。

# 学校長挨拶



学校長 安藤 敏彦

創立90周年の記念式典も無事終わり、100周年に向けて新たな歩みを始めた伝統の関高校に、この4月鬼頭靖尚前校長先生の後任として赴任しました。着任以来3カ月が経過し、今は4月当初の緊張感とは違う、伝統校の重みを感じての勤務が続いています。

さて、同窓会行事としては、6月2日(土)に東京の「八重洲富士屋ホテル」にて開催されました東京支部同窓会に



東京支部総会 岐阜からは9人が出席しました

出席してきました。約100人の参加者の皆様方からは関高への深い愛情と力強いパワーを感じるとともに、安田正先生、川崎立夫先生、坂田實先生、坂下盈彦先生、安藤孝雄先生らの参加もございましたので、恩師を囲む心温まる同窓会となりました。その2週間後の6月16日(土)には、地元の「みの観光ホテル」で武儀高等学校、関高等学校同窓会総会が開催され、160人を超える参加者を得て、東京支部同窓会と同様盛大な会となりました。杉浦孝志会長様をはじめ、90周年記念式典の実行委員長であられた加藤隆志様からは、100周年への大きな飛躍への期待の声を頂き、さらには同窓生の尾関健治関市長様からも関高校への力強いエールの言葉を頂きました。一つ一つが来る10年への励ましとなるものばかりで、職員一同になり代わり心よりお礼申し上げます。

さて、今後の関高校の在り方にも関わって、最近話題となっているテーマに「(高等学校教育の)質保証」という議論があります。これは、5月に東京で開催された全国校長

会の折りに文部科学省の初等中等教育局長が中央教育審議会高等学校部会での議論の一つとして紹介したのですが、内容を吟味すると今後の後期中等教育の将来に関わる深い内容のものになっていることが分かります。議論の概要を紹介しますと次のような内容であります。

(1) 高等学校の現状は、在籍する生徒の能力・適性、進路等により、各学校の役割・機能が大きく異なっている。

(2) それ故、それぞれの学校ごとに生徒の習得すべき内容を明らかにし、その内容を確実に習得させることを通じて、個々人の次なるステップに向けてその能力等を高めることができるように・・・すべきではないか。

この議論は、要約すると、巷間言われる専門高校、進学校等々という類型ごとに習得させるべき内容を明確にして、それぞれの教育活動を展開すべきではないかという議論であります。

この議論を聞いたとき、はたと思いついたのが「学力向上

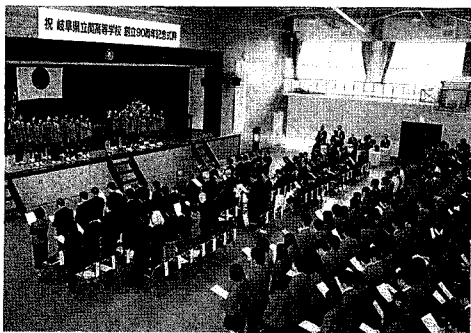


90周年記念事業で作った関高キャップをかぶり勢よく駆け出す強歩大会

証」の議論に10年ほど先立つ取組だったことには、ある種の先見の明、フロンティア精神を感じました。

いずれにしても、100周年に至るこれからの10年は少子化・高齢化社会の進展に伴い大きな社会状況の変化が想定されます。しかし、この関高校が未永くこの地で大きな存在感をもって存立し続けられるように、今から多彩な教育活動を展開してゆかなければならないと考えています。つきましては、同窓生の皆様方にも本校の教育活動に対しておご理解とご支援を頂きますよう、切にお願い申し上げます。次第でございます。

上フロンティア事業の成果」として今も継承されている「関高学力スタンダード」です。「関高学力スタンダード」は、皆さんもご存じのように、「関高生としてこれだけは身に付けさせたい」という内容を精選した独自教材「(Business)教育研究開発センター『VIEW21』、2008.9月号」として現在も作成されているものですが、この取組の着想と「質保証」の論議の行き着く先がほぼ同じであるということにまず驚かされました。さらには、これが「(高等学校教育の)質保



声高らかに応援歌と校歌を斉唱して90周年を祝う

# 関高等学校創立90周年を祝う



## 記念事業として

- ・ 記念誌の発行
- ・ 航空写真撮影
- ・ オリジナルグッズの作成
- ・ 北舎特別教室のエアコンの設置  
\*平成16年から90周年に向けて進めてきたエアコンの設置が、今年度で完結することになります。
- ・ 彩雲館(同窓会館)のエアコン改修
- ・ カラーテントの購入

皆様のご支援をいただき、上記の事業を行いました。

90周年記念に作成した記念誌とクリアファイル▶

平成23年11月5日(土)、関高等学校創立90周年を記念し、本校体育館にて式典が開催されました。在校生840人と職員、来賓、卒業生合わせて約1,000人が出席し、90周年を祝いました。

式典では、加藤隆志実行委員長(高14回)の式辞、鬼頭靖尚前校長の挨拶に続いて、80周年以降の歴代校長、同窓会長、PTA会長、永年勤続職員への感謝状が贈られました。その後岐阜県議会議員酒向薫様(高27回)、関市長尾関健治様(高43回)より祝辞をいただきました。

式典に続いて本校第33回卒業生で東京大学准教授細野忍氏の記念講演が行われました。

## 関高創立90周年

### 記念式典を終えて



実行委員長  
加藤 隆志

昨年3月11日の東日本大震災と福島第一原発災害の発生により、関高創立90周年記念式典開催についての議論がありました。しかし、当実行委員会は被災地への激励と本校の歴史的な重みに鑑み、挙行することを決定しました。

私の高校時代は高度経済成長期の緒にいたばかりで、現在とは比較対象できませんが、のどかで悠長な時の流れがあったように思います。一方、物や人までもIT化する現代は、ゆとりの無い殺伐とした社会になっているようです。

式典に先立ち、そんな時代であるからこそ大切にして頂きたい事を二点提案いたしました。

一点は、「ふるさとの歴史」を勉強して欲しいということ。関高生諸君が将来ふるさとを離れて進学した時、あるいは海外に留学した時、自分が生まれ育ったまちの歴史

を自信と誇りを持って語って欲しいと願うからであります。

二点目は、「巡り会う出会いの円(えにし)」を大切にして欲しいということです。若い皆さんがこの先、多くの交流の中で、人生意気に感じる出会いや自分の将来を決定するような出会いがきつとあるでしょう。そのような出会いの円を大切に育んでいただきたいと思っております。自分の拙い経験から提案させていただきます。

90周年の記念事業並びに式典は滞りなく成功裡に終了できました。鬼頭靖尚前校長先生を始め事務を担当された多くの先生方、杉浦孝志前同窓会長及び役員様、歴代PTA会長、そして関係者の皆様のご協力とご支援に対し衷心より感謝とお礼を申し上げます。

## 在学中の思い出



実行副委員長  
(前同窓会長)  
杉浦 孝志

在学中には東京オリンピックを始めとし、岐阜国体とスポーツの祭典がくりひろげら

れ華やかな時代でした。私もソフトテニス部に在籍し、3年間があっという間に過ぎ去った感覚です。1年生の時初めて体験した強歩大会、足にまめを作りながら歩いたものです。それが2年・3年の時は走破しました。部活動の成果があったのかとも思っています。当時(S39年~S42年)は入学早々に関高精神の注入がありました。歴代続いていたようです。昼食時間に先輩が入って来て、関高生は色々正しく生活しなさいの話だったと記憶しています。現在はなくなっているようですが、私としては伝統的なものとして続けても良かったのではと思っています。

第19回卒業生は382人でした。各方面で活躍されもう一線を退かれた方々もおられると思います。関高も90周年を過ぎ新たな100周年に向けて歩きました。今後関高とともに関高同窓会が、ますます発展されますことを願います。一足先に退くことをお許し願いたいと思います。長い間、難うございました。

## 記念講演

東京大学理学系研究科准教授

細野 忍 先生(高33回)

私の高校時代  
—先輩から高校生に期待すること—

昨年、30年ぶりに母校を訪れ標題の話をさせて頂きました。実は、鬼頭靖尚前校長先生と高校で机を並べた林直樹先生からの依頼を軽く引き受けてしまったというのが真相ですが、私自身が関高で学び考えたことを起点に、大学で学んだこと、大学院修了後のアメリカ留学、その後再び家族を伴って滞在した際のエピソードなどを交えて、後輩に少しでも参考になる様に心がけてお話ししました。

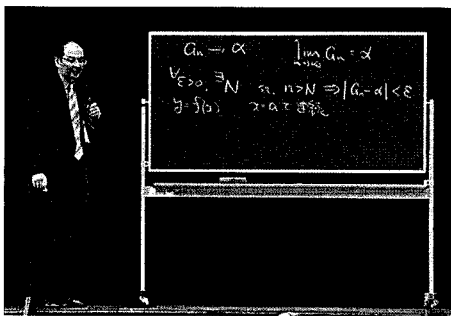
高校3年間に学ぶ知識は膨大で、多感な若者はそこに様々な思いを抱くと思います。私の場合、常に発展を求める西洋科学の方法や考え方に感心する一方で、無常観や諦観に代表される日本的なものの方々に共感を覚え、強い葛藤を感じた

ことが思い出されます。

今から考えると、共感を感じた日本的なものの見方は生き方、すなわち「自己実現」の視点に立つ一方で、発展を求める科学の考え方は「public」の視点に立ち、両者は視点が異なると納得されます。東洋社会にpublicという考え方が入ってきたのが比較的新しく、これも葛藤の一因であろうと考えます。

publicを公共と翻訳すると、「私」を戒める為政者好みの意味合いが入っています。特に幼少の娘が現地の小学校に通った折りにそこで垣間見た教育の様子から、公共とは違うpublicが実感されました。市民社会では自己実現の主体である私が最上位にあり、その前提のもと

に社会の発展を求めて議論する場publicがあり、publicでは合理性と発展と言う尺度から常にNo.1の議論が求められる。アメリカでは、幼少の頃からこのような考え方に基づいた教育がなされている、と実感したのでした。益々国際化されていく今日の社会で、No.1の議論を展開し活躍する関高生を期待し、60分間の話を終えました。



東京大学の講義をうけているかのような様子

## 生徒の感想

3年1組 堀 充希

今回の講演会を通して、私は、自己実現をするためには本音だけではだめだということとがわかりました。私は今まで、自分の思いを正直に相手に伝えることで熱意が伝わると思っていて、今までに経験した面接などもそういう姿勢で取り組んでいました。しかし、これからは本音としての自分の思いは前提であり、建前を大切にする。つまり自分が社会、福祉にとってどのような利益になるかという考えを持てるようにしたいと思いました。

また、私は現在理学部への進学を考えているので、留学されたときのお話はとても参考になりました。初めて知ったことも多く、良い結果が出るかもわからないたくさんのアイデアを一つ一つ確かめていくことはとても大変なことだと思いました。目先の利益ではなく未来の社会のために地道に研究を続けることに改めて素晴らしいさを感じる事ができました。貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。

3年1組 藪下 絢矢

細野先生の講演を聴いて、特に次の二つのことが印象に残りました。

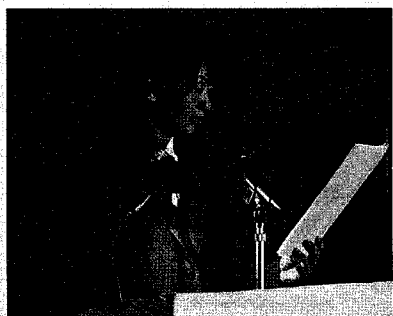
一つ目は、「本音だけでなく建前も必要である」ということです。これまでの自分においては、あまり建前ということを意識していなかったため、自分の思うままに話すということがほとんどであったかもしれない。しかし、これから社会に出ていく中で、自分の思うことだけでなく、広い視野で社会全体を見渡し、言うべきこと、すべきことをよく考えたいと思いました。

二つ目は、「自分の選んだ道を進む」ということです。今、僕には夢があり、進学を希望している大学もあります。本当にその進路が自分にとって一番よいものなのか心配なところもあります。でも、今日の先生のお話で、自分を信じようと思いました。実際に、実績をもって成功を上げた先生の言葉からは、まっすぐに伝わってくるものがあり、本当によい機会となりました。ありがとうございます。

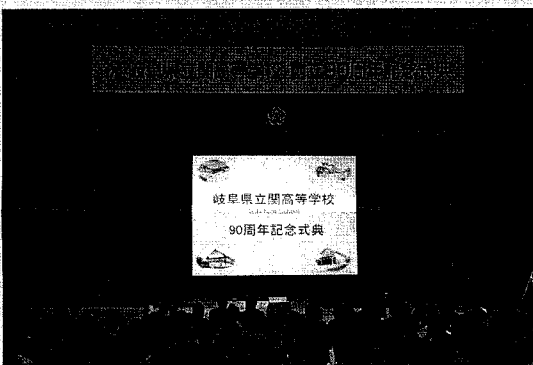
# 関高校の創立90周年までの

## 道のりを辿って

90周年記念式典後、15分程度にわたり関高校の歴史が紹介されました。この歴史紹介は在校生の有志が実行委員となり企画・運営し当日発表までを行いました。学校や保護者、同窓生が大切に保存されている写真や資料をデータ化・編集し、当日はスライド写真に合わせアナウンスされました。何十年前の出来事に懐かしむ同窓生や、現在とは全く違う戦前、戦後間もない関高生の生活に驚く在校生の姿がとても印象的でした。



▲古い資料から4ヵ月近くかけて調べ、情報をまとめた歴史を発表する生徒実行委員



▲関高校90年の歴史をスライドで紹介



▲この写真とアナウンスに一番場内が沸きました!!

### 感想

今回の90周年記念事業を通して、私達実行委員が感じたことは、「伝統ある関高校の一員として誇りを持ち、また受け継いでいくべきだ。」ということでした。90年という、長い長い年月を振り返ったことで、関高校だけでなく、地域の方々など数えきれない人々の努力、奮闘があったからこそ、私達が今通える場所があるのだと感謝の気持ちも浮かびました。これからも関高の伝統を守るべく、生徒全員が努力していきたいです。ありがとうございました。

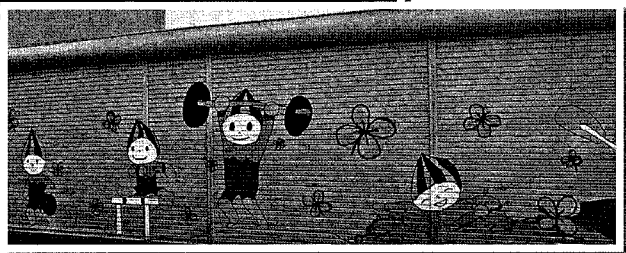
毎週土曜日を弁当の具を梅干ししか入れてはいけない「梅干しデー」とし、その節約金を軍人遺家族の慰問金として献納しました。さらに、1938年には梅干しデーにより得られた節約金、36円60銭が、かしはら神社、土岐神社に献納されました。  
(アナウンスされた原稿より)

### アート部

## 巨大ミナモでぎふ清流国体・大会を盛り上げる

アート部は現在、3年生8人、2年生6人、1年生1人で活動しています。春期休業中に、国体応援事業の一環として、旭ヶ丘幼稚園からの依頼を受け、幼稚園裏の車庫のシャッターに競技をしているミナモの絵を描きました。大きな、そしてシャッターのような凹凸のある所に絵を描くことは、私たちにとって初めてのことであったので、

うまく描けるか不安でしたが、部員の協力の甲斐あって2日間で完成することができました。今後も作品作りに加えて、こうした活動にも積極的に参加し、地域社会に貢献していきたいと思えます。



高さ2.4m 幅14m、6種目をデザイン

# ご寄贈のお礼

## 彩雲館に華添える

関高校の職員として、また、同窓生としてご尽力されました、故 奥田正子先生のご遺族の方より、生前奥田先生が制作された水墨画等5点をご寄贈いただきました。彩雲館にて飾らせていただきましたことをご報告しますとともに、ご寄贈くださいました、ご遺族の方に深く感謝申し上げます。



### 正子先生を想う

渡邊よし子(高一回)

ことしは、桜の開花が遅れた年ではありましたが、正子先生宅の西を流れている関川堤の桜は、見事に満開し、私たちを楽しませてくれました。しかし、正子先生に出会うことはないのです。旅立たれたから、もう4年の年月が過ぎてしまいました。

私が、正子先生とお逢いしたのは、昭和22年4月でした。その昭和22年、当時占領下の日本は学制改革で六・三・三制に変わり、私たちは、岐阜県武儀高等学校専攻科から岐阜県立関高等学校3年

に編入することになった年でした。その高校3年の担任が奥田正子先生だったのです。私たちは、このお姉さま先生をととても身近に感じ、新鮮な気持ちで、お教えを受けました。

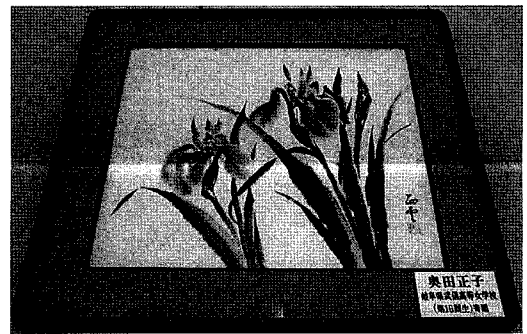
当時の日本は、民主主義だ、自由だといって、それ以前の軍国主義とは大きく大きく変わり教育方針、内容も変わって、何もかもが目新しくなっていたのです。生徒自治会が初めてできました。ホームプロジェクトとか、ホーム

ルームなど、今では当り前のことが次から次へと出てきました。そんな中、岐阜県下の家庭科の研究発表会もありました。それまでの



彩雲館1階の廊下

「教師がどう指導してきたか。」ではなく「生徒が、主体的にどう取り組み、活動しているか。」ということなのです。先生方のご苦労が多かったことでしょう。でも先生方の熱心なご指導のおかげで



彩雲館正面のピロティ

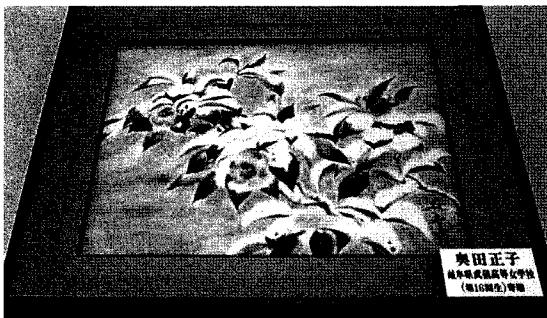
私たちは頑張ることができました。正子先生は、いつもやさしく、丁寧な気長につきあい、お導きくださいました。

先生は、退職されてからも、水墨画、ちぎり絵、木目込み人形、お茶、お花とご趣味は広く、しかもどれも一流に修められ、沢山の作品を残しておられます。中でも水墨画は数多く、感動し癒される作品を拝見して、あの小さいお体で、よくもこんなに精進なさることができたものだと尊敬の念を深くしています。私たち高校一回生の有志は、正

子先生のご助言で木目込み人形で「えと」を作り始め、今も作り続けて友情を深めています。これからも、この「えと」をみる度に先生を偲ぶことでしょう。

先生を偲ぶ想いはつきません。先生とのお別れの時申しましたように、今も先生は、千の風にもって方々へ出かけ、教え子たちを見守っていてくださることでしょう。

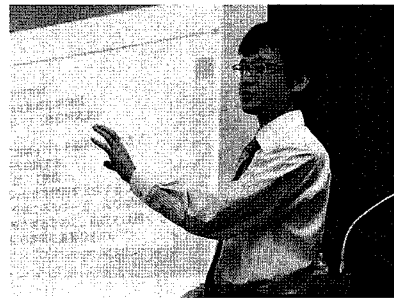
私たちは、あの大きな空を見る度に正子先生を思い出し、元気に暮らしたいと念じています。



彩雲館正面のピロティ

劔隼人先生 プロフィール

1993年3月 緑ヶ丘中学校 卒業  
 1996年3月 関高校 卒業 (天文学部)  
 1996年4月 大阪大学基礎工学部化学応用科学科 入学  
 2000年3月 同上 卒業  
 2000年4月 大阪大学基礎工学研究科化学系 修士課程入学  
 2002年3月 同上 修士課程卒業  
 2002年4月 三菱ガス化学株式会社 入社  
 2003年3月 同上 退職  
 2003年4月 大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻 博士後期課程入学  
 2006年3月 同上 博士後期課程修了 (理学博士)  
 上記期間中、2004年6月~11月 オランダ・グローニンゲン大学留学  
 2006年4月 大阪大学工学研究科応用化学専攻 助手  
 2008年4月 大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻 助教  
 2010年4月 同上 講師  
 上記期間中、2009年6月~8月、2011年11月~翌年1月 アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校留学、2012年9月~12月 スイス・チューリッヒ工科大学留学予定



大阪大学基礎工学研究科物質創成専攻 講師 劔隼人 先生

大阪大学教員、出身高校訪問  
 後輩に語る

平成24年7月3日、本校第48回生で現在大阪大学基礎工学研究科講師の劔隼人先生が訪問され、講演会が開催されました。理系選択者、自然科学部の生徒を中心に60人近くが集まり、理科研究において大切なことや、大学・大学院での研究生活について学びました。化学と聞くと難しいイメージがありますが、先生がご専門に研究

されている無機化学や有機化学の世界をわかりやすくご講義くださり、とても身近なものに感じました。また、大学の講義で使用されている教科書を実際に手にとることができ、参加した生徒も興味津々に教科書をめくっていました。そして、志望する大学入学に向かって勉強に励む後輩へ「日常の授業内容も受験勉強も将来グローバルな世界で活躍するための基礎知識です。5教科6科目をこなして受験するというのは単位時間に効率の高い仕事をするための基礎的な練習です。今を乗り越え、大学・社会に飛び立てる力を身につけてください。」と激励の言葉をかけられました。

質疑応答では、「高校時代に得意だった科目は何ですか?」という質問に対し、意外にも「国語です。古典・漢文が好きでした。」と答えられ一同が驚きました。「高校時代は友達と天文部に入り、毎日グダグダと集まって話をしたり、星の夜間観測を行ったりと楽しく過ごしていました。部活はいい息抜きの時間でした。」と話を続けられ、楽しく学ぶことも大切であるとアドバイスをされました。

講演会後は同窓会会報委員のインタビュアーにも気さくに応じてくださり、その中で、現代の子どもの理科離れについて、「実験・実習の経験が少ないのではないのでしょうか。実際に見て、触れて、試して記憶に印象つけることで関心が生まれると思います。」と話されました。21世紀の環境問題を改善するために化学の力が必要とされています。遊びながら楽しく学ぶことで多くの子どもたちが化学に親しみ、グリーンな世界になることを願います。

後輩たちへのメッセージ

英語(コミュニケーション)力を身につけよう!!

大学はどんどん国際的になってきています。工学部系の科目の多くは英語で書かれた教科書を使用し、新しい研究の論文も全て英語で発表しなければなりません。今から教科としての英語の枠を超え、コミュニケーションツールとして英語に親しみ誰とでも話せる英語力を身につけておくとうれしいです。

世代を超えた芸術の絆

第4回 関高OB展

関高校OBの芸術を  
古民家で展示

出品者募集

関高校(武儀高女)卒業生の交流と親睦、芸術の普及等を目的とした美術展を開催します。昨年に引き続き、卒業生の皆様から作品を公募します。

日時:平成24年10月28日(日)~11月4日(日)  
午前10時~午後5時 最終日は午後4時まで

開催場所:古民家 山麓 (関市本町7-13)  
部門:絵画、書、写真、陶芸、デザイン(左記以外は受付不可)  
出品料:4,000円

お申込:事務局までお問合せください。後日、出品申し込み用紙を送付。  
お問合せ先:電話 058-232-8932 瀬瀬明世(5回生)  
主催:関高校OB美術展実行委員会  
後援:岐阜県立関高校同窓会

# 夢を志望に、志望を現実にも! 卒業生の進路状況

卒業年度	23	22	21	20	19
卒業者数	279	312	316	316	315
国公立大学	126	153	140	145	150
私立大学	647	668	653	729	545
東京大学	1	0	0	3	0
京都大学	0	5	5	5	5
名古屋大学	10	15	15	20	21
大阪大学	4	3	2	2	6
岐阜大学	17	40	25	32	20
早稲田大学	9	10	16	4	17
慶應義塾大学	8	5	4	6	7
南山大学	41	51	40	42	37
名城大学	64	41	41	54	36
立命館大学	58	88	66	93	44
同志社大学	31	33	43	35	24

※合格者の多い大学のみ掲載しました。

23年度の進学実績は、京都、名古屋および岐阜大学の合格者が減少し、厳しい結果となりました。また現役生の国公立大学合格率もやや低い数値となりました。

そんな状況の中で、久しぶりの現役東京大学合格者や東京医科歯科大学、宮崎大学医学科合格者の存在は特筆すべきものとなりました。

その他、大学別にみると、一橋大学を筆頭に、東北、名古屋、大阪、神戸、富山(薬学部)、岐阜薬科大学などの難関大学の合格者、人気の高い地元大学である岐阜、名古屋工業、名古屋市立大学などの合格者の存在も続いています。私立大学では、早稲田9、慶應義塾8、東京理科22、同志社31、立命館58、南山大学41など、難関大学の多数の合格者の存在が続いており、素晴らしい合格実績となりました。

## 平成24年度役員紹介

会長	堀部 哲夫(高21回)
副会長	加藤 洋子(高13回)
	井上 博文(高16回)
	日比野信子(高16回)
	藤井 市三(高19回)
	清水 俊夫(高20回)
	早川佐知子(高21回)
	鈴木 良春(高22回)
	筒田 義和(高23回)
	丹羽 克彦(高24回)
	立川 雅俊(高25回)
	川嶋 亨治(高26回)
	佐藤 敏則(高27回)
	浅野欽一郎(高29回)
	長尾 一郎(高32回)
書記	浅野登代子(高10回)
	山田 正樹(高24回)
会計	武藤 玲子(高13回)
	神谷 泰久(高21回)
会計監査	伊佐地秀一(高21回)
	古田 貴巳(高39回)
会報委員長	榊山 舜亮(高14回)
会報委員	梅田 洋子(高11回)
	高井奈津子(高14回)
	野中 歌子(高15回)
	平田 和子(高16回)
	池村 洋子(高18回)
	黒野理津子(高38回)
	長尾 歩(高40回)

## 第64回生(平成24年3月卒業) 同窓会クラス幹事

1組	丸茂 勇輝
2組	長瀬 晶子
3組	武田 直樹
4組	山田 拓真
5組	鈴木 真利華
6組	佐藤 大貴
7組	白井 里奈
学年幹事	加藤 明
	平田 寛
	小野木 淑乃
	中野 和哉
	石田 幸香
	長尾 亮
	天野 友乃
	石田 幸香
	平田 明寛
	石田 幸香

## 平成24年度 同窓職員異動

**【転出】**  
常勤講師(国語) 鈴木めぐみ(高59回)  
【転入】  
事務主任 杉村 尚美(高45回)

## おくやみ

高橋 俊示先生  
塚原 史朗先生  
鶴飼 修司先生  
酒向 鐸雄先生(高5回)

ご冥福をお祈りします。

## 事務局だより

▼転居等により、会員の皆様へのご連絡や「桜ヶ丘だより」のご送付に支障が生じております。つきましては、各学年の幹事の皆様や、会員の皆様ご本人からの情報を事務局までお知らせ頂けると幸いに存じます。

▼同窓会開催の折には、事務局までお知らせください。補助金をご援助しております。

▼会報掲載用の原稿を募集しております。同窓会員の皆様のご活躍の様子や、同窓会での交歓のひとつとき等の記事をお写真とともに御寄せください。(お写真はお返し致します)

今年度は2年に一度の通常会費(2,000円)納入の年にあたっております。同封の振込み用紙をご利用のうえ、最寄りの郵便局よりお振込みください。ますようお願い致します。

同窓会会則 第12条  
正会員は入会費並びに会費を出金するものとす。ただし、入会金は5,000円、会費は2年毎に2,000円とする。又、入会金は経費として積立金とし、会費は会の活動、発展および第10条の目的を達するに必要な経費の補助と特別行事(記念事業等)の補助を行うものとする。